

令和4年度 鈴鹿中等教育学校 目標・重点行動計画 自己評価

I 校務分掌等

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない O 現時点では未評価

令和5年3月31日現在

教育目標・重点行動計画	期末 自己評価
1 キャリア教育の充実 ①進学実績の向上 面接・小論文指導の充実 ②6年間で有効に活かす体系的取組を目指して キャリア教育の体系化	B キャリアアドバイザーを導入し、教員と連携し、面接・小論文指導の強化ができた。定期的な対策講座も実施できた。 C 個別的な取組は進んでいるが、体系化には全ての教育活動との関連付けが細部にわたり必要で、さらに時間を要する。
2 ICT教育の充実 ①Classi等日常生活におけるICT活用 ②教科指導におけるICT教育の展開	B 情報のプラットフォームとしての使用を継続し、学習記録、校内グループによる情報を発信した。AIを用いたWebドリル等、個別最適化に向けた試験運用の準備に着手した。 B 対面授業を前提としたGoogle Classroomの併用と個別最適化に向けた費用対効果も考慮した教材研究を推進した。
3 学校の取組や魅力の発信～広報発信力の向上～ ①ホームページの充実。Web更新の徹底、英語による新着情報や動画配信導入の研究と実施 ②あそびとまなびの体験ラリー復活	B ホームページの新着情報を曜日担当者を定め、平均週3回以上の更新の他、英語による新着情報、動画の導入を行った。 A 3年ぶりに復活した。入場制限は行ったものの、当日355名の児童を含む総数700名の参加者があり好評であった。事前申込が3日で定員満了となった。
4 主体性ある生徒の育成 ①挨拶を互いにする生徒90%以上、自ら挨拶する生徒70%以上 ②ボランティア活動の推進、主体的な活動を推進し帰属意識の向上 ③ピンクシャツ運動など、社会問題を自分のこととしてとらえられる活動の提案と実践	C 互いに挨拶する生徒の目標の90%には達成しなかった。とりわけ、自ら挨拶を進んでする生徒は、30%にも満たなかった。 B 地域のゴミ清掃、科学クラブの小学生対象の科学教室、吹奏楽部員発案による老人介護施設訪問演奏会などを実施、他個人活動有。 B 生徒会の協力のもと実施し、年々高まりを見せている。 次年度以降さらなる発展充実を図りたい。

④防災教育の充実 ⑤令和5年度5年生向け夏季休業中の海外研修ガイダンスの実施 ⑥EMC主催放課後講座「三重人に訊こう」の新設	B 消防団員による1年生向けの防災講話、消防団員指導による2年生対象の救命法講習を実施した(団員には本校教職員を含む)。生徒主体に防災活動を行うには至らなかった。 C オーストラリア姉妹校への研修は、旅行業者の大失態により、最終的には実施できず、楽しみにしていた5年生希望者および保護者を落胆させてしまった。新5年生へのガイダンスは実行した。 A 県内の事業者であるマルヤス社長浜田吉司様(6月15日)および、二軒茶屋餅角屋社長鈴木成宗様(12月15日)に講演をしていただきキャリア教育の一環としてまた郷土愛を育む良い機会となった。
5 教職員の資質向上 ①学力向上を意識した授業力向上 教員や生徒による授業アンケートの定期的な実施 教員同士による授業見学や研究授業の推進 初任者・2年目研修・初任者授業指導・中堅研修・全体研修の充実 ②人権意識の向上のための研修会の実施や各種研修会への参加促進 ③不登校について、情報の共有と対応の充実 ④働き方改革の推進 事務処理のIT化 職務のスクラップ&ビルド	B 教科・学年による授業見学の励行。 生徒自身の振り返りシート(学期・単元毎)、生徒による授業アンケート(1・2学期)および公開授業における保護者アンケート(6月・11月)の共有。初任者・2年目研修(全17回)における授業力向上の取組を強化。中堅研修の授業研究を学園全体で共有した。個別最適化に向けたAI搭載のWebドリル研究のための全体研修会を実施した。 B 校内外ともに、講座や研修に積極的に参加できた。 B 相談室を利用している生徒においては、学年・カウンセラーと綿密に連携ができた。 B まだ一人当たりの業務負担の軽減はできていないが、令和6年度に本格導入の統合型校務支援システム構築に向けて準備を進め、さらなる詰めと試行の段階にまで達した。業務のスクラップや効率化についてはまだまだ改善を必要とする。
6 学習環境の充実 ①通路の窪みの改修(生徒会要望) ②本館のスロープ設置 ③2号棟3階の手洗い場の設置 ④保健室のエアコン入れ替え	A 6月に正門付近と本館北側駐車場の窪みに着手し整地を行った。 A 9月にスロープを設置し、車椅子が通れるようになった。 A 6月に手洗い場の設置を行った。 A 7月に新しいエアコンに取り換えた。

Ⅱ 学年目標

評価 A 達成 B 一定達成 C 十分達成していない O 通年目標のため未評価

令和5年3月31日現在

1学年「ふつうの日々をたいせつに」 ○学習習慣の確立 家庭学習時間の下限60分 課題未提出者10%以下 ○進路変更者ゼロ ○第2回学力推移調査(9月実施) 偏差値A1以上 30名以上、B1以上 60名以上 D層 10名以下 ○英語検定 英語検定取得者数 全体の80%以上 医進・選抜コース 3級以上合格40名以上 特進コース 4級以上合格20名以上	B 家庭学習の時間は、約70分。 課題の未提出者は、10%以下は達成しなかった。 B ゼロにはならなかったが、いずれも家庭事情等でやむを得なかった。 B GTZ A1以上 16名、B1以上 59名、D層 7名 上位層の数は少なかったが、下位層は少なくすることができた。 B 英語検定取得者は106名/120名で、全体の90%で達成。 医進・選抜コース 3級以上合格18名 未達成 特進コース 4級以上合格28名 達成
2学年「凡事徹底」 ○挨拶の奨励 聞こえる声で挨拶 (あいさつ検定4級) 100% ○自己管理・時間管理ができる人に Classiの入力率100% 学年指定の振り返り入力100% ○第2回学力推移調査(9月実施) 偏差値A1以上35名以上 とりわけB1以上 95名以上 D層 5名以下 ○英語検定 4級以上合格 100% 3級以上100名以上(医進・選抜 85名、特進 15名)	B 教員から挨拶した時に、聞こえる声で挨拶を返すことが当たり前になった。自ら挨拶をする生徒は少ないが少しずつ増えてきている。 C ほぼ達成した生徒もいるが、生徒間で差がある。振り返りの入力を促す指導を行うことが負担になる生徒も存在するため、学年が上がるにつれて任意にするなど、柔軟な対応が必要。 B A1以上 国語20名、数学29名、英語23名。 B1以上 国語65名、数学95名、英語64名。数学のみ達成。 4月実施の学力推移調査より成績は全体的に向上している。 A 4級以上合格84%(128名/156名)、3級以上102名 学年目標の中間層の底上げができた結果が3級以上102名につながったため、数値以上の価値があると学年団での学びがあった。

3学年 「広い視野を持ち、自分の世界を広げる」 ○自分の興味ある大学・学部・学科を言える生徒100% ○Classiの入力率・手帳の提出率100% ○第2回学力推移調査(9月実施)偏差値S3以上 20名以上、 A1以上 30名以上、 B1以上 80名以上 ○英語検定 3級以上合格100%、準2級以上70%、 2級以上合格20名以上	B 学部・学科の調査に全員で取り組んだ。興味ある大学は次年度に実施あする。 C 入力率および提出率が下がり活用が低下した。 B 偏差値S3以上 19名、 A1以上 28名、 B1以上 75名 わずか未達成であったが、過去回と比較し、成績の向上が見られた。 C 3級以上合格76%、準2級以上54%、2級以上18名 未達成ではあったが、次の級に挑戦する姿勢が見られたのは良かった。
4学年 「語れる自分を創る」 ○志望理由書を全員が書ける ○オープンキャンパス(オンラインを含む)への参加100% ○スタディサポート(116名) S3以上 25名以上、A3以上 65名以上、B3以上 100名以上 ○全統模試(偏差値) 70以上 10名以上、60以上 25名以上、50以上 75名以上 ○英語検定 2級以上 40%以上、 準2級以上 80%以上 3級以上 100%	B 100%には達しなかったが、ほぼ全員が一定のレベルの志望理由書を作成できた。 B オンラインも含め各自が、大学に触れ参加シートを作成し、志望理由書の作成につなげた。 C S3以上 6名、 A3以上 24名、B3以上 46名と未達成。 C 70以上 3名、60以上 13名、50以上 39名と未達成。 C 2級以上 28%、 準2級以上 64%、3級以上 86%と未達成。

5学年 「仮想受験生として、進路実現に向け全員が走り出す」 ○共通テスト形式の問題において、英語・数学＋2科目以上で志望校ボーダーラインを超える ○スタディサポート・進研模試 〈 〉内は、昨年度11月の人数 GTZ S3以上25名以上(19名)、 A3以上90名以上(57名) ○全統高2模試 3教科偏差値 60以上25名以上、 50以上90名以上 ○英語検定 2級以上55名(31名)、準2級以上90名以上(76名)	C 英語・数学＋2科目以上では、約10%に留まった。少なくとも1科目でボーダーを超えた生徒が学年の約半数であった。 B スタディサポートにおいては、S3以上32名、A3以上66名、進研模試(英数型)は、S3以上26名、A3以上68名とS3以上に關しては達成できたが、A3以上の中間層の底上げは不十分だった。 B 理系・文系3教科型において、記述模試は60以上27名、50以上、64名。共通テスト模試は60以上38名、50以上72名であり、上位層形成には成功した。もう1つのテーマであった中間層の底上げは、次年度に持ち越しとなった。 B 2級以上49名、準2級以上91名であった。
6学年 「有終の美を飾る」 ○共通テストにおいて、各教科の平均得点 全国平均点＋10% ○難関国公立大学(国公立医学部医学科を含む) 10名以上 ○国公立大学合格者数 40名以上を目指す。	C 未達成。17科目中11科目で全国平均を上回ったものの10%超は1科目に留まった。 B 9名であったが、名古屋市立大薬学部、東京医科歯科大学歯学科等計4名もよく健闘した。 C 30名と未達成となった。

保護者アンケート 集計			令和3年度(12月)				令和4年度(7月)				令和4年度(12月)			
			そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない	そう思う	ややそう思う	ややそう思わない	そう思わない
1	教育目標	建学の精神である「誠実で信頼される人に」が生徒や保護者に明確に示され、学校教育目標に基づき運営されている	40.8%	53.3%	5.5%	0.4%	46.8%	47.1%	5.7%	0.4%	38.3%	56.1%	5.0%	0.6%
2	学習指導	学習指導において生徒一人ひとりの状況や習熟度に応じた適切な指導をしている	43.6%	42.4%	12.6%	1.4%	44.3%	45.0%	9.7%	0.9%	39.6%	49.6%	8.9%	1.9%
3	進路指導	学年に応じた進路指導が充実している	44.2%	48.1%	7.5%	0.2%	48.1%	45.3%	6.1%	0.6%	43.4%	49.6%	6.0%	1.0%
4	生活指導	基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを身につけられるような指導が行われている	37.8%	50.2%	11.4%	0.6%	40.2%	48.1%	10.3%	1.5%	35.3%	54.7%	8.9%	1.2%
5	教育相談	一人ひとりの生徒の様子を常に把握し、親身になって悩みや相談にのってくれる	45.7%	43.3%	10.2%	0.8%	48.1%	43.8%	7.0%	1.1%	48.3%	44.0%	6.4%	1.4%
6	学校生活	学校行事やクラブ活動などで、生徒の活躍できる機会が多い	30.2%	49.4%	17.1%	3.3%	37.7%	49.5%	11.5%	1.3%	34.0%	50.7%	13.0%	2.3%
7		保護者の意見を真摯にうけとめ、親切に物事に対応してくれる	41.7%	52.6%	4.9%	0.8%	44.9%	48.1%	6.4%	0.6%	42.4%	52.1%	4.7%	0.8%
8	教育環境	安心・安全で満足のいく施設・設備である	56.8%	39.3%	3.7%	0.2%	60.7%	35.2%	3.5%	0.6%	59.3%	35.8%	4.4%	0.4%
9	家庭との連携	学校からの情報はメール配信・ホームページや通信等で十分に保護者に伝わっている	50.3%	43.0%	6.3%	0.4%	53.3%	38.6%	7.5%	0.5%	53.5%	39.8%	5.6%	1.2%
10		保護者会活動が活発である	25.5%	54.9%	18.2%	1.4%	32.6%	54.7%	12.3%	0.4%	29.5%	58.1%	11.4%	1.0%
11	満足度	子どもを入学させてよかった	57.1%	37.7%	4.2%	1.0%	60.5%	34.0%	4.8%	0.7%	58.7%	36.2%	3.7%	1.4%
今年度のみ		新型コロナウイルス感染症対策の対応等は充分であった	56.3%	39.2%	3.3%	1.2%	52.5%	40.9%	6.2%	0.4%	50.7%	43.5%	5.0%	0.8%

令和4年度 教育目標・重点行動計画 鈴鹿中等教育学校

建学の精神 「誠実で信頼される人に」
学園経営方針 「生徒、保護者、地域の満足度向上」
学園の標榜 「すべては生徒のために～生徒が輝く学校づくりを目指して」

教育実践目標
1. 主体的な学びを育み、真の学力を養成します
2. 自主・自律の校風づくりをします
3. 違いを認め合い、自他を尊重する仲間づくり

重点目標及び行動計画

1 キャリア教育の充実

- ① 進学実績の向上 面接・小論文指導の充実
- ② 6年間で有効に活かす体系的取組を目指して キャリア教育の体系化

2 ICT教育の充実

- ① Classi等日常生活におけるICT活用
- ② 教科指導におけるICT教育の展開

3 学校の取組や魅力の発信～広報発信力の向上～

- ① ホームページの充実。Web更新の徹底、英語による新着情報や動画配信導入の研究と実施
- ② あそびとまなびの体験ラリー復活

4 主体性ある生徒の育成

- ① 挨拶を互いにする生徒90%以上、自らあいさつする生徒70%以上
- ② ボランティア活動の推進、主体的な活動を推進し帰属意識の向上
- ③ ピンクシャツ運動など、社会問題を自分のこととしてとらえられる活動の提案と実践
- ④ 防災教育の充実
- ⑤ 令和5年度5年生向け夏季休業中の海外研修ガイダンスの実施
- ⑥ EMC主催放課後講座「三重人に訊こう」の新設

5 教職員の資質向上

- ① 学力向上を意識した授業力向上
教員や生徒による授業アンケートの定期的な実施
教員同士による授業見学や研究授業の推進
初任者・2年目研修・初任者授業指導・中堅研修・全体研修の充実
- ② 人権意識の向上のための研修会の実施や各種研修会への参加促進
- ③ 不登校について、情報の共有と対応の充実
- ④ 働き方改革の推進 事務処理のIT化 職務のスクラップ&ビルド

6 学習環境の充実

通路の窪みの改修（生徒会要望）、本館のスロープ設置、
2号棟3階手洗い場の設置、保健室のエアコン入れ替え



学年目標

1 学年「ふつうの日々をたいせつに」

- 学習習慣の確立 家庭学習時間の下限60分、課題未提出者10%以下
- 進路変更者ゼロ
- 第2回学力推移調査（9月実施）
偏差値A1以上30名以上、B1以上60名以上、D層10名以下
- 英語検定 英語検定取得者数 全体の80%以上
医進・選抜コース 3級以上合格40名以上
特進コース 4級以上合格20名以上

2 学年「凡事徹底」

- 挨拶の奨励 聞こえる声で挨拶（あいさつ検定4級）100%
- 自己管理・時間管理ができる人に
Classiの入力率100%、学年指定の振り返り入力100%
- 第2回学力推移調査（9月実施）
偏差値 A1以上35名以上、とりわけB1以上95名以上 D層 5名以下
- 英語検定 4級以上100%、
3級以上100名以上（医進C85名、特進15名）

3 学年「広い視野を持ち、自分の世界を広げる」

- 自分の興味ある大学・学部・学科を言える生徒100%
- Classiの入力率・手帳の提出率100%
- 第2回学力推移調査（9月実施）偏差値S3以上20名以上、A1以上30名以上、B1以上80名
- 英語検定
3級以上合格100%、準2級以上70%、2級以上合格20名以上



4 学年「語れる自分を創る」

- 志望理由書を全員が書ける。
- オープンキャンパス（オンラインを含む）への参加100%
- スタディーサポート（116名）
S3以上25名以上、A3以上65名以上、B3以上100名以上
- 全統模試（偏差値）
70以上10名以上、60以上25名以上、50以上75名以上
- 英語検定 2級以上40%以上、準2級以上80%以上、3級以上100%

5 学年「仮想受験生として、進路実現に向け全員が走り出す」

- 共通テスト形式の問題において、英語・数学＋2科目以上で志望校ボーダーラインを超える。
- スタディサポート・進研模試 ※（ ）は、昨年度11月の人数
GTZ S3以上25名以上（19名）、A3以上90名以上（76名）
- 全統高2模試 3教科偏差値
60以上25名以上、50以上90名以上
- 英語検定 2級以上55名（31名）、準2級以上90名以上（76名）

6 学年「有終の美を飾る」

- 共通テストにおいて、各教科の平均得点 全国平均点＋10%以上
- 難関国公立大学（国公立医学部医学科を含む）10名以上
- 国公立大学合格者数 40名以上を目指す。



各教科の目標

ホームページに掲載していますので
ご覧ください。



学校法人 鈴鹿享栄学園

鈴鹿中等教育学校